

平成22年度 第6回 常呂まちづくり協議会 会議要旨

◎日 時	平成22年11月2日(火) 午後6時00分～
◎場 所	常呂総合支所 2F 第1会議室
◎出席者	協議会：11名 清井会長、山内副会長、秋葉委員、稲田委員、葛西委員、澤向委員、鈴木委員、田淵委員、寺町委員、三角委員、室田委員
◎北見市	白石総合支所長、鈴木教育事務所長、三嶋市民環境課長、森田保健福祉課長、辻産業課長、岡本建設課長、加藤図書館長、武田ところ遺跡の森所長、表子育て支援室主幹、山田水産課長 川名地域振興室長、橋本地域振興室主幹、水野地域交通対策担当係長 事務局：吉田次長、川村地域振興担当係長、佐伯地域振興担当

開 会

清井会長 : 挨拶

会議成立 : 委員15名中11名出席(自治区設置条例第7条第3項)

小谷市長 : みなさんおばんでございます。お仕事のあと、まちづくり協議会にご参加いただきありがとうございます。会長からの話にもありましたが、日に日に冬の厳しさといいますかそういうものが近づいてきているのかなと思っております。話しを聞きますと、漁業では近年にない秋鮭の大豊漁というふうに聞いております。値段もまあまあということではなかったのではないかと考えております。北海道全体では秋鮭は前年度比では減少しているようですので、オホーツク管内は良かったのかなと考えておりますが、ホタテの値段がどうなのか心配なところでございまして、まさか北見市で円高による影響を受ける業者があるということ承知していなかったものですから、円高が80円台前半ですからどうなのかと心配をしているところでございます。また、朗報というのでしょうか、常呂のカーリングということで、今年のオリンピック以来かなり盛り上がってきておまして、本橋さんが地元に戻られたということもあって、連日ニュース等で取り上げられており、今日の昼のNHKニュースでも本橋さんが試合をしている絵が流れたということも含めて、かなりカーリングに対する市民の想いというのがだんだん深まってきているのではないかと考えておまして、私もこれから常呂自治区の振興のためにもカーリングの振興というのはひとつあるのではないかと考えているところでございます。

本日、常呂自治区におけます公共交通のあり方について諮問させていただきますが、これは第3回目の協議会で議題として提案させていただいていたもの

でございます。急速な少子高齢化に伴い、公共交通の重要性が増してきているということで、今各自地区においてもご議論をいただいているところでございますが、今年の4月から企画財政部の中に地域交通対策担当を設けまして、バスを中心とした北見市内の総合交通体系について、見直し、構築作業を進めているところでございます。そういう意味で、それぞれの自治区において、常呂ですと代替バスですとか市営バスですとか運行をしておりますが、それだけで本当にみなさんの足を確保するという意味で十分なのかどうかということも含めまして、私としましては地域の足を守るということも必要なのではないかとおもいまして、今皆さまに諮問をさせていただきまして、それぞれのご意見を聞かせていただいたあと、それを成案といたしまして、北見市の交通体系について前向きに考えていきたいと思っております。これから年末に向かい、大変忙しい時期になりますが、第3次実施計画のなかで盛り込めるものは盛り込んでいきたいと、こんな考えもございますので、みなさんで公共交通のあり方についてご議論いただきますように、そして、ご答申を頂きますようお願いを申し上げます、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

諮 問

(1) 常呂自治区における公共交通のあり方について

－ 小谷市長からまちづくり協議会へ諮問 －

清井会長 : ただいま市長から諮問を受けました。皆さまのお手元に諮問書の写しをお配りいたしましたのでご覧ください。

また、市長におかれましては、このあと別の用務がございまして、ここで退席させていただきますのでご了承願います。

議 題

(1) 常呂自治区内事業の今後のあり方について

清井会長 : 前回に引き続きまして、第3次実施計画に係る懸案事項の審議を行います。

前回の協議会で、各課からの説明がひと通り終わりましたので、本日は最優先、優先のランク付けを行いたいと思っておりますが、前回までの説明を通して、改めて何か質問等ございましたら受けたいと思っておりますが、何かございませんか。

委員一同 : 質問なし

清井会長 : それでは、最優先、優先のランク付けに入りたいと思っております。

昨年はAランクの最優先事業が7事業、Bランクの優先事業が21事業、Cランクの後年度検討事業が14事業ということで絞込みを行っており、今回も

昨年同様に絞込みが必要であると考えております。事業の絞込みに当たっては、昨年は総合支所側の考え方を聞いて、それを参考に絞込みを行った経過があります。今回も、同様に総合支所の考えを聞いたうえで、それを参考に優先事業の絞込みをしていきたいと思っております。よろしいですか。

委員一同 : 異議なし

清井会長 : それでは、総合支所の考え方について説明願います。

吉田次長 : 資料に沿って説明

清井会長 : ただいま吉田次長から常呂総合支所としての考え方について説明がありましたが、これについて意見、または質問があれば受けたいと思っておりますが、何かございますか。

葛西委員 : 7ページの集計のところ臨時費要求事業とあるがよく分からない。まちづくり協議会として審議するのに、我々は臨時費といわれても行政用語なのですが、優先順位でいくとどの程度のものなのか臨時費の性格がよく分からない。

吉田次長 : 優先順位はAランクと考えてもらっていいです。事業的に、実施計画には出てこないが緊急的にやらなければならないというものを23年度予算で臨時要求するというので掲載しています。

葛西委員 : それならAランク（臨）とかにしたほうが、素人には分かりやすい。実施計画から外すということは我々には関係のないことで、ちゃんとやるんですね、やって欲しいねという意見をまとめるのがまち協で、常呂の地域内のことをやるのですから、実施計画でやるのか臨時費でやるのか会計のことはよく分かりませんが、Aランクと考えて最後には臨時費でという仕切りなんだよということであれば、我々は分かりやすい。

鈴木委員 : ここに出てくる地方債はすべて過疎債ですか。過疎債になるものとならないものを分けて、返さなくてもいい借金って補助金ですよ。補助金に当たる部分がいくらかそれ以外のものがいくらかとはっきりしたほうが分かりやすいと思うのですが。

田淵委員 : 事業によっては過疎債が使えないこともあるのでは。

事務局 : 全て過疎債ということではありません。起債の関係は財政のほうでどういう財源を使うかということになってきます。いろいろ有利な起債がありますので、それを選んで使っていくということになります。起債にはルールがいろいろあり、ここで決めることは出来ません。

葛西委員 : このまち協では、常呂では何の事業が必要か議論するだけでは。

清井会長 : Aランクは9事業ですがよろしいでしょうか。

委員一同 : 異議なし

清井会長 : Bランクは35事業ですがどうでしょうか。

鈴木委員 : 産業課の部分で、緊急性のあるものはないのですか。

- 事務局 : 畑総事業などは計画的にやられる事業なので、計画に基づいて粛々とやるという意味合いでBランクとしています。
- 寺町委員 : 3ページの建設課の新規事業で市営住宅改修改善事業がBランクになっているのですが、年度的には来年度からではないので来年Aランクにしてもいいのかなとは思っていますが、市営住宅ということであれば、今実際に借りている人達がいるので、緊急性ということであれば少しでも早めにランクを上げてもいいのでは。
- 吉田次長 : これはすでに公営住宅の改修計画を持っていて、常呂の部分については24年度から手をつけるということで決まっています。ですから、あえてこの答申の中でAランクの一つにしてたくさんにするよりも、絞り込んでAランクという意味を強める意見で、この事業はBランクにしています。先ほどの産業課の畑総事業などと同じ扱いです。
- 葛西委員 : 漁港前公衆トイレ下水道接続・改修事業の予算は漁港区域だから水産課なのですか。市民環境課のような感じがしますが。
- 山田水産課長 : 補助の関係もありますが、漁港内の環境衛生ということで水産課です。
- 清井会長 : Bランクは35事業でよろしいですか。
- 委員一同 : 異議なし
- 清井会長 : Cランクは7事業ですがよろしいですか
- 委員一同 : 異議なし
- 清井会長 : 特別要望事業として3事業ありますがよろしいですか。
- 田淵委員 : 国内的にも有数の遺跡で何とかしなくてはいけないということで、常呂のまち協でランク付けするのではなく全市的な問題として取り組んでいくという考え方は、伝わっているのでしょうか。
- 吉田次長 : 市長の公約の中にも遺跡の関係についてはきちんとやっていこうということで話していますので、それは大丈夫です。ですから、常呂だけの問題ではなくてという意味合いで特別要望事業としています。
- 清井会長 : それでは、再度確認します。特別要望事業が3事業、Aランク最優先事業が9事業、Bランク優先事業が35事業、Cランク後年度検討事業が7事業、臨時費要求事業が11事業、合計65事業ということで答申してよろしいでしょうか。
- 委員一同 : 異議なし
- 清井会長 : それでは、以上で第3次実施計画に係る各種懸案事業の審議を終了します。

(2) 常呂自治区における公共交通のあり方について

- 清井会長 : 事務局より説明願います。
- 地域振興室 : スケジュール・諮問の視点について資料に基づき説明

清井会長 : ただいま本庁の地域交通対策担当から説明をいただきましたが、この「公共交通のあり方」についての答申時期が、今月末、若しくは来月上旬を予定しているということで、期間が短く大変厳しい状況ではありますが、この11月に何回か協議会を開いて、まとめ上げていかなければならないと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

このあとは、意見交換の形で議論を進めていきたいと思ひますので、ただいまの事務局からの説明に対する質疑なども含めて、何か発言ございせんか。

田淵委員 : 利用者側の意見や新規路線に関する意見を聞くということだが、多分高齢者と若い人では全然違う意見が出てくるのではないかと思うのですが、何らかの手法で町内会などを利用しながらアンケートとまではいかななくても、幅広い年齢層から意見を聞く考えですか。

地域振興室 : 今の段階では、この協議会の委員さんのご意見、普段生活をしていて隣近所の人でこんなことを言っていたよという感想やご意見で結構だと思ひています。ただ、23年度には地域公共交通会議を設置して、その中では地域に対するアンケート調査を実施していきたいと思ひていますので、何らかの形で全地域の意見を反映させていきたいと思ひております。とりあえずは、この協議会の委員さんたちのご意見をいただきたいと思ひております。

澤向委員 : 今、無料で北見まで行けるようになったのですが、常呂から北見に行くときは日赤とか病院に行きたいのだけれども、端野の方を通って行くので買い物したりするときには便利かもしれないが、日赤に行くのにととても不便になったという話を聞きました。うちにも年寄りが出て車で送っていくのでバス停がどこにあるのか私には分からないのですが、運転する人がいなくてバスしか利用する方法がない人は、日赤までは北見のバスターミナルが終点で、年とってると足腰も痛かったりでそこからタクシーに乗って日赤まで行くそうです。ちょっと日赤を回ってくれたらいいのと思うのですが、誰に言ったらいいのかわからないといった利用者の方がたくさんいると思うので、常呂自治区のほうからでもバス会社に言ってもらえないかといっている人が結構います。

稲田委員 : うちの母も無料バス券をいただいて月に一度日赤に行ったりしています。新しい路線になって、オホーツク海病院だとか、のんたの湯とか通っているの、オホーツク海病院に行く方は便利になったといひていますが、今の年配の方で病院に行かれるのは日赤が多いんです。それも、特定疾病など日赤の内科じゃないとダメな方も多いんです。旧路線の仁頃を通っていたときは日赤の近くに停留所があったので、日赤に行くのが楽だったけれど、路線が変わってしまつて、駅から日赤までは歩けないので、毎回タクシーで日赤まで行っています。その往復の金額と待ち時間がとても長い。朝早いときは車で行きだけでも送っていくのですが、日中は仕事をしているので、向こうで待ってて乗せて帰ってきてくれというのはちょっと恐ひないと言ひご年配の方もいらっしやるんですね。年配の方は日赤に行くのに停留所があったらとても助かるといひています。ちょっと若くて足の丈夫な方は、駅から日赤まではちょうどいいお散歩コース

だといっていました。以前近くにあったものがなくなってしまったので、はじめから日赤の近くに停留所がなかったのならまだあきらめはつくのですが、停留所が近くにあったころから行かれている方が通院しているので、停留所の問題は少し考えていただきたい。無料バス券はみんな喜んでます。

川名地域振興室長： 今のご意見に対して即回答ということは出来ないのですが、今の路線に変わったのが6、7年前になるんですかね。路線が不便だと聞いたのは今はじめてです。ですから、常呂の意見がなかなか向こうに伝わってないと思うんです。北見の中ではそんな話題にはならなかったもので、そういった意見を言うていただければ私たちは北見バスのほうに伝えます。事実、先日も北見のまち協の中で自由に交わされた意見を北見バスに伝えたら、すぐに取り組んで、この間新聞に出ましたが、夕陽ヶ丘線というのが試験運行することになったんです。それは、8月に出た意見を伝えたらすぐでした。もちろん会社の中でもいろいろ検証はしたのだと思いますが、ここは採算が取れると判断したらもう12月から試験運行するといったすばやい動きもありますので、ここのご意見というのは本当に重要だと思いますので、どうぞ今のような自由な意見を言うていただけるとありがたいなと思います。

稲田委員： タクシーで行き来するのが苦にならないお年よりもいるんです。でも、そこまで余裕のない方は歩くのがきつくて病院へ行って疲れて帰ってくるんです。そういう方のためにも駅から日赤までの小さな往復のバスを市のほうで無料バスみたいな感じで、網走には病院バスというのが無料でありますが、1時間に1本でもいいので往復してくれると、また違うのかなと思います。

田淵委員： 北見常呂線はオホーツク海病院ができたころに路線が変わったというのはわからなかったが、住民の要望か何かがあってそうなったのですか。常呂の人は時間もかかるようになったのでは。

吉田次長： 終点までの時間はそんなに変わらないです。

川名地域振興室長： 仁頃地区の利用がなかったものですから、それだったら端野を回したほうがオホーツク海病院だとか東武だとかあるので需要があるのではないかということによってそうなったんです。

葛西委員： 路線の関係ではないのですが、無料だから時間つぶしに暇なときにバスに乗って回るといった話も聞いたが、働いている人の税金があげられるのにタダでいいのかなと。金額にしたらいしたことはないのかもしれないし、公共交通機関は確かに必要だが、タダにする必要はないのではという疑問はあります。

稲田委員： 網走みたいに小さな病院バスで、本当に病院に行きたい人だけに乗せる。網走辺りは、若い人で運転が出来ないくらい熱があっても、年配の人しか利用できないみたいですが、無料バスをやめて、年寄り向けの病院行きのバスを1日に何本か出すということではできないのですか。

田淵委員： 常呂から網走の病院に通っている人も結構いますよね。朝のバスは高校に通う学生と病院に行くお年寄りではほぼ満席状態ですよ。そういうお年寄りは料金は払っているのですか。

吉田次長 : 払っています。能取との境界までは北見市内なので無料になりますが、そこから先は有料になります。

稲田委員 : 昔は何回分か無料のチケットがありましたよね。あれが無くなって、北見がタダになったんですよね。

吉田次長 : 網走便と北見便を比べると便数も時間帯も料金も違うんですよね。北見はちょっと距離が遠いけれど運賃は約倍ですよね。お年寄りとか関係なく、一般の人が乗ろうと思ったら、片道1800円は高いというのが実感ですよね。高校生からの意見でも半額にしたら乗るといった話も結構出ているんです。

鈴木委員 : 先ほどの話の中で、北見常呂線で2000万円くらいの補助金という話があったのですが、以前にもらっている資料では北見常呂線で1278万円となっていますが、どちらが正しいのでしょうか。

橋本主幹 : 1278万円というのは21年度の額です。22年度は2000万円程度ということですが、22年度分は21年10月から22年9月までの実績によるもので、まだ補助の額が北見バスから上がってきていないのではっきりしたことは言えませんが、なぜ、そんなに違うのかといいますと、21年度までは国からの補助をもらって運営をしていたので、市からの補助が1200万円程度で済んでいたのですが、22年度からは国の補助がなくなったので一気に2000万円台まで上がるだろうということです。ですから、まだ想定の段階で申し訳ないのですが、その程度かかるだろうということです。

鈴木委員 : 1日にどの便に何人くらい乗っているのか分かりませんが、1日の便の平均乗車密度が3.7人で平均運行回数が4.1ということは、タクシーでもやれるような人数で、もし補助が2000万もかかるのであれば1日あたりで割っても5万5千円程度の金額なので4便で割ったら1万4千円くらいですよね。これであればタクシーでも十分。今の計算は個人の負担は全然入っていませんでしたが、1便で最大何人の利用があるのか、どの時間帯が多いのかは分かりませんが、最大の部分で定量化しているのであれば、それに見合ったタクシー運行ということを考えても金額的にもいいのではないかと思います。いつも大きなバスに1人2人というのを見るのですが、そのほうがさっき言ったような、どこに止まって欲しいとか自由度も増しますし、いつも使う人で話をすれば、急に今日乗りたいとかいう人は少ないと思うんです。病院に行くとか買い物に行くという人が増えるのかもしれないので、4人乗りではなくジャンボタクシーでもよいと思うんです。補助が1200万円から2000万円に上がることを考えたら、そういう方法のほうが使う側も支出する側もいいのではないのでしょうか。

橋本地域振興室主幹 : 前回、私のほうから説明した釧路方式だと思うんです。要はデマンド、つまり予約タクシーです。予約をして、乗り合わせて、例えば日赤までいくだとか、そういう形でやれば必要なときだけ運行するということで、だいぶ経費は縮減できるのかなという考えは持っています。

鈴木委員 : 利用する側にとっては逆に乗りたいところで拾ってってもらえるという考

えになりますよね。人が決まっていればのはなしですが。

清井会長 : 市営バスや通院バス、スクールバスとの合理性も考えていかないと。
秋葉委員 : 協議するうえで財政のことも考えて適正なものを作るという考えで、財政のことも含めて協議しなければならないということですか。

橋本地域振興室主幹 : 経費のことについては一切考えないで議論していただきたいと思うのですが、2000万円もかかるのであれば何か別の方法があるのではという視点です。矛盾しているのですが、あまり経費のことは考えないで議論していただいて結構です。

田淵委員 : 2000万円も補助を出して、年寄りは無料にしてとやっている割には、意外と使っている人は不便を感じている。同じ走るならもっといいコースを走ったら便利がいいのにといった部分が大事なのではないでしょうか。公共交通機関なので、ある程度どこかがバックアップして、市営バスや診療バスやスクールバスを有効な使い方をして、とにかく利用者が便利よく使えるようになったほうがいい。せっかくお金を出しているのだからみんなが喜んでくれる効率のよい交通体系を考えてもらいたい。利用者は一番それを望んでいるのではないかと思います。

清井会長 : 昔はスクールバスに一般の人が乗ることは出来なかったのですが、今はよくなったのですか。

地域振興室主幹 : きちんと運輸局に申請をして受理されれば一般の混乗も可能です。実際に端野自治区ではスクールバスに一般の方が混乗しています。ただ、一つだけいえるのは、そこに路線バスが走っているところは一般混乗して無料で乗せてしまうと、民業圧迫ということになりますので、それはしないようにということになっています。

田淵委員 : 23年に交通基本法案が通常国会に提案されるとありますが、法律などでできることとできないことがあるという意味なんでしょうか。

地域振興室主幹 : あえて交通基本法案については説明しませんでした。23年1月の通常国会で提案される予定です。簡単に言うと、国民の移動権の確保、保証が一番のネックになりまして、この法案が多分通されるだろうということです。3月くらいに地域公共交通確保維持事業の申請とありますが、これは国の補助になります。例えば、私たちが新しい交通システムを導入するといったときには国からの補助を視野に入れて考えていこうということです。ただ、これを先にみなさんに申し上げますと、補助金をもらうために会議をするのかと思われるので、認可されなくても交通計画を策定して交通システムを導入していきたいと考えておりますので、説明を省かせていただきました。

寺町委員 : ちょっと不安なのですが、例えば利用者が少ないからこうしたほうがいいのか、大きなバスを走らせるより小さなバスにとかありましたが、確実に常呂自治区からよその地域へつなぐための公共交通というのは残さなきゃいけないですよね。常呂で線路がなくなったときに、やっぱりがたっと寂れたというのがあるので、定期的にきちんと確実に走っている公共交通がなくなる、なくなる

ことはないでしょうけど、どんどん数が減らされて形が小さくなって、いつでもどこでも誰でも乗れるようなものがなくなるというのが不安なんですよね。やっぱりそのへんの確約が欲しいと思う部分があります。

- 鈴木委員 : でも、余分なものはいらないと思う。コスト的に無駄だと思う。
- 田淵委員 : もちろんそうだけれども、無駄だからといって排除していくとどんどん小さくなっていくような気がするんです。
- 葛西委員 : そのコストを負担するのに皆さんがいいと言うなら大きいままでもいいと思うよ。
- 鈴木委員 : 民間だと飛行機でも列車でもそうですが、採算の取れない路線は切っていくますよね。今は補助金出してくれているからいいですが、市も湯水のように出せるのならいいですが、民間もペイしている間はいいですがペイしなければ自分の経営にあうように本数を減らしたり走り方を変えたり、主導権は民間のほうを持つので、そういうことから考えると、この先どうなるか分からないですよね。それを、別な方法に変えられるのかどうかというのは、民間のほうも今補助金を頂いてやっているわけですから難しいのかもしれませんが、人口も減ってますしやっぱり変えていかなければならないと思います。
- 田淵委員 : 今のような意見もあるし、合併したことでひとつの北見市になったのだけど、北見の中心の住宅街の足の便、例えば何メートルか歩けば食料品が買えるという条件にいる人と、一方で買い物難民という言葉があるように年寄りの人が買い物に行くことすら出来ないくらいの距離だという、そういった人口密度の違いみたいな部分をどこかでフォローしないと、みんなが同じような快適な生活が出来るとい話にはならない。だから、当然それを逆算していくと、例えば常呂みたく北見の中心から 40 キロ 50 キロとあるところに住んでいる人は、交通機関に限らずなんでもコスト高になるのは当たり前。住民センターの利用にしても利用者で割るとそもそも人数が少ないのだから利用高になるのは当たり前。そういう発想が基本にないと、平等性というか、どこかでフォローしていかないとまずいのではないかと思う。
- 清井会長 : やはり常呂と留辺蘂だよな。
- 鈴木委員 : 小さいものから大きいものに交通は必ず変わっていきますよね。今までは大きいもので全部を回るとい運行方法だったが、やっぱりターミナルを通しながらつないでやっていく方法にしていかなければならないのではないのでしょうか。これからもっと人口が少なくなるといっても、都市集中といつかインフラのほうでそういう形で進むので、今、田淵委員が言ったように地方のほうで不便になるのですが、それでも必要なものを維持してもらうためにはそれに必要な方法ですよ、今話している北見市の公共交通としてどう考えていくのかというのは。単純に今というのではなく、これから先の部分も考えてやっていかないとならない。
- 田淵委員 : 別な話になっていくんだけど、バスだとかタクシーだとか利用者の足を確保したとしても、常呂北見間の冬の除雪体制といつか、例えば、今、道々の改修

工事をやっていて走りにくい状態になっているんだけど、そのへんの除雪も含めて、道路の環境なんかも考えなければならないと思うんです。透析をやっている人達は冬の吹雪のときなど死に物狂いでいくそうです。透析をやらないと体がどうにかなるか交通事故でどうにかなるかぐらいの勢いで病院通いをしているみたいですが、その辺の環境も北見の便利のいいところに住んでいる人とかなりの条件の違いがある。場合によっては吹雪で帰って来れなくなることもあるみたいですし、全体を考えなければならないのかなという気がします。

三角委員 : 乗車率が悪いから小さくするというのは分かるのですが、なぜ乗車率が悪いのかということを考えなければならないのではないのでしょうか。料金が高いんです。お年寄りは無料ですが、無料なので何人乗っても料金は発生しないんです。乗車率は上がっているかもしれませんが、結局は税金を使っていますよね。そうじゃなくて、中学生や高校生だって親と一緒にではなく、友達と北見に買い物に行って帰ってきたいということがあると思うんです。そういった場合に、1800円では行けないですよ。そこは、ワンコインとか300円くらいにしたりして、その代わり年寄りも300円くらいもらう。一律300円くらいとっても乗車率は上がると思うし、今病院だって心の病で北見の病院に行っている若者も常呂に多いんです。日赤だけでなく、そういう行きそうな大きな病院を回るとかすれば、若い人だって往復で600円くらいですから利用すると思うんです。小さくすることも必要ですが、なるべく一律でお金をもらったら2000万も補助しなくても済むのではないかと思います。

鈴木委員 : 料金は北見バスが決めているのですか。

事務局 : そうです。

清井会長 : 市営バス、通院バス、スクールバスの回り方とか、重複している部分もありますがそのへんはどうですか。

稲田委員 : 通院バスといいますけど、町の中の人には利用できませんよね。

吉田次長 : これは、昔、日吉に診療所があったのですが、そこを廃止するときの日吉方面との約束で、診療所を廃止する代わりに通院バスを走らせますということで走らせているもので、市街地はもともと病院がありますので、そういう対応にはなっておりません。ただ、路線図を見たら分かるように、スクールバスとほとんどラインが一緒なので、経費の問題も絡んでくるのですが、別々に走らせるよりは時間帯を考えたら一緒になるかなと考えられるんです。スクールバスは日吉、富丘、共立、豊川とぐるっと回ってます。市営バスは、栄浦、岐阜方面を走っているのですが、スクールバスの役目も果たしているんです。スクールバスの時間帯に合わせて市営バスも走っており、3路線のスクールバスが走っていると考えてもらって構わないと思います。常呂網走線の網走バスと市営バスがラインが重なっているのと、北見方面は北見バスとスクールバスと診療バスが重なっています。同じラインを走っているのですが目的も時間も違う利用者がいるのでそれぞれ走らせていますが、もっといい方法がないかなというところです。あともう一つ、本通りとか豊浜の方面から市営バスを回せないか

という意見がちらほらありますが、網走バスの路線と競合する部分がありますので、クリアしなければいけない問題もあります。

清井会長 : 民間バスが走っているところはスクールバスに一般混乗出来ないということ
は、日吉常呂間は民間バスしか走れないということですね。

橋本地域振興室主幹 : 今のままでは出来ません。例えば、ひとつの例として極端な話ですが料
金を取っている民間バスが撤退、廃止した場合にはスクールバスなり市営バス
に一般混乗出来ます。

吉田次長 : ただ、北見バスも常呂から北見まで直通で走っているわけではないし、常呂
から北見に乗るよりも端野から北見に行き来している人のほうが多いと思うん
です。ある程度の路線は残さなければいけないかもしれないし、単純にお金がか
かるから廃止にしたほうがいいのかという話にはならないと思うんです。
仁頃から北見に行く代替バスとして北陽線というのが走っています。それで、
あえて常呂から仁頃、大和を回っていく路線じゃなくてもいいということにな
ったのかもしれませんが。それで、ラインを変えたのかもしれませんが。

鈴木事務所長 : 以前は北陽に行くバスが何本かあったんです。往復だけですが。それで、大
和を回って乗り降りすることが出来ないの常呂線はメビウスを回ってという
ことになったんです。

スクールバスの関係で、一般混乗について陸運と協議した経過があります。
北見常呂線と競合するところでは、共立川東の高校生を何とか乗せることがで
きないかということで協議しましたが、ここについてはやはり北見バスがある
のでダメだということでした。富丘小学校をなくしたときに教育委員会の中で
富丘地区の高校生を何とかできないかということで協議した経過がありますが、
ここは交通不便地帯なので乗ってもいいということで、常呂高校に通っている
富丘地区の生徒がいるときにはスクールバスに乗ってきています。

葛西委員 : 総経費も議論の中に入らないとだめだと思うんです。北見バスや網走バスに
いくら補助して通院バスにいくらだという話だけではなく、北見でバスを何台
持っていて委託費がどのくらいなのか。スクールバスのように補助金をもらっ
てバスを買ってやるのがいいのか、北見バスに要望をして朝一に1本スクール
バスと同じ時間にやってもらって、その分の少ない金額で委託できるならなら
そっちのほうがいいだろうし、最初からスクールバスありきではなく、陸運に
混乗をどうのという話ではなく、スクールバスがあったらこれだけの経費がか
かるということも考えないとだめだと思うんです。市がやるのがいいのか、民間
に委託するのがいいのか。バスの確保自体も全部北見バスや網走バスにやっ
てもらうのがいいのか、市でバスを買って委託というのもどうかと思います。

田淵委員 : スクールバスについている黄色い三角のマークはつけるのに何か要件がある
のですか。あれがないと、スクールバスとして子供を乗せて走ることが出来な
いのですか。

鈴木事務所長 : 要件ではあります。

川名地域振興室長 : 現実に関、市営バスがスクールバス代わりに走っているわけですから、そ

れは可能だと思います。

橋本地域振興室主幹： 北見ではないですが、ほかの町ではそんなに多くはないですが、今言ったやり方で委託をしてやっているところもあります。

稲田委員： 佐呂間では小学校が統合になり幌岩方面は経費と時間の問題なんだろうが、タクシーで毎日送り迎えをしています。3人か4人しかいないのでバスよりもタクシーのほうが経費が安いんだそうです。

川名地域振興室長： 70歳以上の無料パスもタダにしたらみんなが喜びかと言ったら決してそうではない、地域によっては使いたくても使えないわけだから、それならむしろ前のように1年間に5千円の助成をしてくれたほうがいいという人もいるかも知れないし、地域に沿った適正なやり方があると思うんです。無料パスも23年度までの試験運行なので、来年また見直すはずなので、もしかしたら、いくらかお金をもらうことになるかもしれませんが、こういった常呂のご意見も反映されていくと思います。

澤向委員： 私たちの意見を言っても、本当にバスに乗っている人や使いたい人の意見ではないと思うんです。自分で車を運転することが出来ない人の意見を聞く場所というのがないと。乗ってる人も言いたいことを運転手さんにもバス会社にもいえない。余計なことを言ったらほかの人に迷惑をかけるかもしれないとおもって、ものが言えないといっているの、そういう人の話を何とか聞いてあげるといって機会をどこかで作らないとだめだと思います。

三角委員： スクールバスの乗車状況を見てもA線13人、B線11人ですね。極端な発想かもしれませんが、スクールバスに1000万かかっているんだったらこの人達に補助金を出して、例えば30万補助金を出しますので自分で来てくださいということはできないのですか。

鈴木事務所長： 義務教育は5キロ以上はお子さんにかかる通学費は全て負担をするということになっています。

葛西委員： バス路線がない人はどうするのですか。通学費を出しているのですか。

鈴木事務所長： バス路線が決まっています、多少そこまで出てきてもらうことはありますが、5キロ以上の子供は全員スクールバスで集めてきています。

寺町委員： 例えば、通院バスとスクールバスのA線は北見バスと重なるっていましたが、この部分をなくすので北見バスにこの時間帯でやってくださいとかこの停留所を多くしてくださいといった要望は出来るのですか。

川名地域振興室長： 停留所の位置関係は分からないのですが、時間については可能です。現実にはそういう例はあります。

田淵委員： 北見バスは今手を上げると乗せてもらえるのですか。

川名地域振興室長： 場所にもよります。

三角委員： 通院バスは週に2回ですね。どの位の割合で乗ってくるかわかりますか。

森田保健福祉課長： だいたい年間を通して1便に6人くらいです。1日の利用数でいくと27～28人です。

白石支所長： 基本的にどうして検討の素材にしているかということ、重複するのであれば、

見直しによって省略したり別の方向に向けたりすることも可能ではないかということで、可能であれば見直すことをこの中に入れたいという考え方なんです。そういうことも答申の中で盛り込んでやりたいということを事務局は考えています。その部分でご意見をいただけたらと思います。

田淵委員 : 補助とかの要件があるから、そのへんも考えるとよく分からないのだけれども、スクールバスと診療バスと市営バスの3つあるが、これを一つにまとめてスクールバスの要素でも使い、市営バスの要素でも使えるかどうかということ自体、知識がないので分からない。全部をうまく使いまわそうという発想で出来る話と出来ない話があると思う。

鈴木事務所長 : いい点もあるし出来なくなることもあります。スクールバスを定期で走らせると、今まで1時半に帰ってた子供たちはどうやって帰るのかとか、学校の授業などで使っているのはどうするのかとか出てくると思います。

葛西委員 : たまに遠征があるのにそのバスを使わなくてはいけないから使えないんだと考えるのはおかしい。その分は民間の貸し切りバスを使えばいい。遠征にはそのバスを使わなければいけないという発想を変えなければいけないと思う。

田淵委員 : スクールバスの話ですが、合併の頃ちょうどこういう話が市P連であって、合併したことで厳しくなったというか、予算もある話ですがやりづらくなって、あの時少し縮小されました。佐呂間は何もかも全部やってくれている。同じ義務教育を受けているのと思う部分も含めて話をしました。

清井会長 : 協議の途中ですが、予定の時間となりましたので、本日の協議会は一旦ここで終了とし、次回の協議会で引き続き議論を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

清井会長 : 次に、その他として委員の皆様から何かございますか。なければ、事務局から何かありますか。

【次回開催日程】

事務局 : 次回の協議会の開催についてですが、引き続き公共交通のあり方（答申書案）につきまして、ご審議をお願いしたいと存じます。日程につきましては、後日、改めて調整したうえでご案内いたしますので、よろしくお願いします。

清井会長 : 以上をもちまして、平成 22 年度第6回常呂まちづくり協議会を終了いたします。